

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり (西ユニット)		
所在地	愛知県津島市葉苅町字綿掛55番地		
自己評価作成日	令和4年12月7日	評価結果市町村受理日	令和5年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2392700023-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出を多く取り入れたり、ボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

夏のかき氷では、練乳、粒あん、抹茶と沢山のシロップで満面の笑顔をひきだした日もあり、焼き芋や餃子パーティー等の非日常で、ポロリとこぼれた意向を次に反映させている事業所です。「季節のイベントの様子を写真付きのめくもり新聞で知らせてもらえる」ことが家族に大変好評で、撮り方も本人の性格が伝わって微笑ましく、飽きずに見れるとともに職員の手業が光ります。毎日の散歩を欠かさず、それでもなお「出たい」人には降りないドライブを励行するとともに、紅葉のビデオをプロジェクター鑑賞するというフォローぶりも見事です。また「職員のモチベーションをあげるために出来ることは何かと考えている」という家族の存在も財産です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念はあり、各ユニットでの目標をつくり実践できるよう努めている。	理念に基づき、ユニットごとに年間目標を作成しています。壮大な理念を具体的に身近な合い言葉のようなものにする事で、職員の実践につなげています。ただし、そもそも達成度を測るような設定でもなく、経過途中の見直しはありません。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアや、近所にある幼稚園へ訪問し発表会を見学させていただいたりしていたが、現在はコロナウイルスの影響で行わずに日常の散歩で近所の方とあいさつをする程度である。	新型コロナウイルス感染症予防の為、外部との往来をすべて中止しています。以前には利用者家族が収穫した野菜を届けてくれるなどの心尽しも見られましたが、事業所だけでなく総じて「会わないほうが安全」が浸透していて訪問者もありません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方を通じて認知症に関する理解を深めて頂いていたが、コロナウイルスの感染予防のため現在は行われていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者へは書類提出を行っており、外部の方の意見は書面で提出をしてもらっている。出された意見は現場サービスの向上に向け生かしていけるよう努めている。	母体病院の栄養士が異動で抜けた他は従来通りのメンバーで運営推進会議が編成されています。書面開催については、昨年の6月からは津島市役所以外のメンバーにも届けるように成り、本制度をより適切に運用させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当とは、運営会議以外にも行き来する機会をつくり市とともにサービスの向上に取り組んでいきたい。	津島市のネット配信は必ずチェックしています。制度変更のほか実践者研修や管理者研修の開催案内も即座に確認でき、助かっています。また、地域包括支援センターには運営推進会議の議事録への返信で励ましの言葉が届き、力となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止の勉強会を行い、身体拘束について理解し、スタッフ間で情報共有を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月におこない、年2回の研修も欠かさず実施しています。委員会の内容はややカンファレンス的であり、議事録も詳細の記載がないため、今後改良を予定しています。	委員会開催は減算対象の事案であり、年度内に実施できないと困ることになる為、実施月を前倒しすると安心です。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士が意見交換し合いながら虐待のないケアに努めている。 一人でのケアが大変な時は応援を呼ぶなどしてストレスをため込まないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会がなく今後、学ぶ機会を増やして行けるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に管理者が対応し利用者を含め家族と話し合いをし理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望などは可能な限り対応し運営に反映できるように努めている。	「季節のイベントを実施し、その様子を写真付きのめくもり新聞で知らせてもらえる」ことが家族に大変好評です。写真の撮り方も本人の性格やそのときの状況が伝わるもので微笑ましく、飽きずに見れるとともに職員の手業が光ります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートや連絡ノートを使用して様々な情報が共有できており、定期的にミーティングを行い意見などを交換している。職員同士のコミュニケーションが行いやすく意見が反映しやすい、風通しのよい職場環境を作りを行うように努めている。	全体会議はコロナ禍で休止中ですが、ユニット会議がリーダーを中心に実施されています。またレク係、中庭や畑の係、食材係など、係活動も豊富なため職員の意見も必然的に増え、意見交換は活発です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ同士の意見交換もつねに行っており、介護における意識の向上、レベルアップにつなげている。 気持ちよく、やりがいを持って働けるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防の為、外部の研修は一時中止している。 法人内の研修や動画を使った研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流があまりないのでお互いに学び合える機会を増やしていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に家族からの情報提供と本人様からの要望を聞き、入居後不安なく過ごしていただけるように努めている。不安な所があればその都度話し合いにより対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に本人の意見や家族からの要望などを聞き、必要に応じて話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族や本人からの状況確認と生活面での要望などの聞き取りをし、職員間で情報を共有して必要と思われるサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に家事等をしてお互いが助け合う気持ちで生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活面で困った事や助けてほしいことがあれば、出来る範囲で家族にも協力をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ感染予防の為に面会を制限している為に馴染みの人と交流は難しい状態である。	面会は玄関のみで、状況によっては中止を余儀なくされていますが、ぬくもり新聞の充実がマイナス面を十分補っていることが見てとれます。また、職員が支援することで、利用者は家族に暑中見舞いや年賀状を送ることができ、その返信も届いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションを通して利用者同士が関わるようにしている。 コミュニケーションをとることが難しい方は職員が間に入り関わりを持つように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談があれば対応するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聞き出来る限り希望や意見に添うようにしている。また、スタッフ間で情報を共有し希望や意向を把握するようにしている。	夏のかき氷では、練乳、粒あん、こしあん、抹茶など多種多様なシロップを準備して利用者の満面の笑顔をひきだした日もあり、焼き芋や餃子パーティーなどの非日常のなかで、ポロりとこぼれた意向を次に反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用から話を聞きこれまでの生活歴を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや生活記録、申し送りノートを活用したり、職員同士の話し合いにより状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りノートを使った情報共有と定期的なミーティングを開き意見交換している。介護計画作成時に本人や家族の意見を取り入れ現状の状況に即していけるよう努めている。	法改正で介護支援専門員兼計画作成担当者の1名の配置でよいこととなりましたが「負担が大きいのでは」として、事業所では従来通り各ユニット毎に介護計画書を作成しています。また家族意見は支払いに立ち寄ってもらえたとき反映するようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の生活を記録し、何かの気づきや問題などがあれば申し送りノートに記入をし情報を共有している。定期的にミーティングを行いケアプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の要望、スタッフの意見を取り入れ臨機応変な対応をするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染予防の為、現状は実践できないが今後落ち着けば実践していきたい。以前は地域のボランティアの方に訪問して頂いたり、近所の幼稚園に訪問したり喫茶店へ行くなどしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回、職員と定期的を受診をして家族からの要望があれば医師に伝えている。状態に変化があれば受診をし家族に連絡している。	母体病院の内科医の診療日が火曜なことから、利用者を概ね4つのグループに分け、職員がマンツーマンで付き添って受診支援をおこなっています。また外来のナースの訪問も週1回あり、診察の様子を確認しているため、丁寧な助けを受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師が訪問し利用者の身体状態を見てもらっている。定期の訪問以外にも気になる事があれば看護師に相談し対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者や主治医と連絡を取り合い対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態を見て医師や看護師、家族、職員間で話し合い対応している。	重度化に関する指針を備えています。点滴が必要、口径接種できない場合には、病院の療養型等へ移設となるといった事は家族に説明しています。ただ、癌で余命いばくもない利用者を看取った例もあり、医師の協力が得られれば柔軟に対応する考えでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の実践力は職員によってばらつきがあり、全スタッフが対応が出来るよう研修を行い実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練や災害マニュアルを作成し対応ができるように努めている。今後、地域との連携も行っていきたい。	5月と10月に日中と夜間それぞれのパターンで、厨房からの出火設定として年2回の防災訓練(避難訓練・通報訓練)は完遂しています。本年度は水消火器を借りてはいませんが、報知器を実際つかい消防署との連携も図れています。	コロナ終息後は2点の実施を期待します。 ①ハザードマップでは水害もあり得る為、訓練をおこなう ②防火管理責任者を管理者の他にも設定し、防災係を設ける

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できる限り、利用者様の性格など把握し利用者様に応じて声掛けの仕方をかえるように努めている。	要支援2の利用者はよく見て、よく聞いていることもあり、利用者のことはフロアで話さないよう注意しています。また、当人は同じことを何度も繰り返す人や出来ないことが増えてきた人に文句めいたことを言うことから、職員が間に入ってさりげなくフォローもしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を伝えやすい雰囲気を作り、個々に合わせた対応に心掛け意思決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで調理や掃除などをしてもらい、普段の生活リズムを気にかけるようにしている。入浴もなるべく意向に沿って入浴して頂いている。 職員側のペースにならないように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしてもらったり、ご自分で選べる方にはその日の服装を選んでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や準備など出来る利用者にはスタッフと一緒にして頂き、時には本人に任せ見守りの中対応している。 朝食はパン等好みのものを提供している。 利用者に合わせて食事形態や食器など工夫をしている。	法人内の管理栄養士が検討した献立に基づき食材が発注され、職員が調理しており、栄養価の高いものが作りたてで提供されています。介護度が軽度であると、職員の腕にランク付けする利用者もいるため、配慮と工夫が必要と成っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニューを提供し利用者の状態によって食べやすい形態に調理している。 十分に食事を摂取できない方には補助食を取り入れたり、小まめに水分を提供するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや、夜間の義歯の消毒を行っている。 口腔ケアは毎食後うながしている 一人で不安がある方にはスタッフが確認し一緒にやっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき個々の排泄パターンを把握して声掛け誘導を行い可能な限りトイレでの排泄に努めている。	車いすの利用者が6名となり、1名がベッド上でのおむつ交換となっていますが、他は2人介助が必要な1名を含み、全員日中はトイレ対応です。事業所の方針としても筋力をはじめ健康維持の為に「トイレで」を励行しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとって頂いたり、体操や散歩などで体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ一日おきのペースで入浴されている。希望で夜間入浴されている方もみえる。拒否する方は無理強いせず状況を見てタイミングに合わせたケアをしている。	「2日おきの入浴」を目指しており、法定より数を増やしてサービスにあたっています。拒否の症状の人が2名いて、まだ確実な対応方法が見つめずにはいますが、好きな職員が対応すると少し機嫌がよいといった小さな変化を見逃さないようにしています。	入浴剤が選べ、選択の機会が増えると、なお良いと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もご本人の状況に合わせて居室で休息をとって頂いたり、リビングでもくつろぐことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の詳細は生活記録に保管しているのでいつでも確認ができる。職員全員がすべての薬を把握するのは難しいが薬に変更があったときは特に変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が出来る範囲で調理・洗濯・掃除などで役割を持って一緒に行ったり、工作や編み物、カラオケなど好きな事に取り組むよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナ感染予防の為外出は行っていない。以前は地域の喫茶店やお店に買い物、家族様との外出を行っていた。	コロナ禍前には地域へ買い物に出かけたり、家族も誘い出してくださいましたが、現状は季節の花を眺め、風を感じる散歩に留まっています。毎日散歩には出ていますが、「出たい」意向がやや強い利用者には職員が降りないドライブに努めています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっている トラブル防止の為、希望される利用者以外は現金を持っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話で家族と連絡を取ることが出来る。 携帯電話を使い家族と連絡を取っている方もおられる。 年賀状や暑中見舞いも送られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう飾りつけや皆で作った掲示物や写真などを飾っている。 天井飾りや壁面などに季節に合わせたイラスト等を飾り楽しく生活できるようにしている。	新型コロナ対策が始まる前から母体病院が消毒力の高いクロスを配備くださっていて、それを使い衛生環境を整えており、特段付加したり変更した事はありません。換気は気がついたら開ける不定期の開閉としています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごされてくつろげるようソファがあり、車椅子の方も介助でソファに座っていただいている。 気の合う利用者様同士席を近くしたり心掛けしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具の使用をしたり、くつろぎやすいような環境の整備や利用者の状況に合わせた部屋のレイアウトをしている。	車いすを利用するようになった人はその時に動線を見直しています。入所時から使う人はベッドのどちら側を壁に向けたいかを中心として、本人が動きやすいよう図っています。また家族からの敬老の日や誕生日祝いを居室に飾っている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は安全に配慮しながら、ベッドや家具を使用しやすい位置に配置している。 車椅子でも自由に動ける通路の確保をしている 安全な環境になるように工夫はしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり (東ユニット)		
所在地	愛知県津島市葉苅町字綿掛55番地		
自己評価作成日	令和4年12月7日	評価結果市町村受理日	令和5年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2392700023-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出を多く取り入れたり、ボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

夏のかき氷では、練乳、粒あん、抹茶と沢山のシロップで満面の笑顔をひきだした日もあり、焼き芋や餃子パーティー等の非日常で、ポロリとこぼれた意向を次に反映させている事業所です。「季節のイベントの様子を写真付きのめくもり新聞で知らせてもらえる」ことが家族に大変好評で、撮り方も本人の性格が伝わって微笑ましく、飽きずに見れるとともに職員の手業が光ります。毎日の散歩を欠かさず、それでもなお「出たい」人には降りないドライブを励行するとともに、紅葉のビデオをプロジェクター鑑賞するというフォローぶりも見事です。また「職員のモチベーションをあげるために出来ることは何かと考えている」という家族の存在も財産です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念はあり、各ユニットでの目標をつくり実践できるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアや、近所にある幼稚園へ訪問し発表会を見学させていただいたりしていたが、現在はコロナウイルスの影響で行わずに日常の散歩で近所の方とあいさつをする程度である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方を通じて認知症に関する理解を深めて頂いていたが、コロナウイルスの感染予防のため現在は行われていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者へは書類提出を行っており、外部の方の意見は書面で提出をしてもらっている。出された意見は現場サービスの向上に向け生かしていけるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当とは、運営会議以外にも行き来する機会をつくり市とともにサービスの向上に取り組んでいきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止の勉強会を行い、身体拘束について理解し、スタッフ間で情報共有を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士が意見交換し合いながら虐待のないケアに努めている。 一人でのケアが大変な時は応援を呼ぶなどしてストレスをため込まないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会がなく今後、学ぶ機会を増やして行けるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に管理者が対応し利用者を含め家族と話し合いをし理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望などは可能な限り対応し運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートや連絡ノートを使用して様々な情報が共有できており、定期的にミーティングを行い意見などを交換している。職員同士のコミュニケーションが行いやすく意見が反映しやすい、風通しのよい職場環境を作りを行うように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ同士の意見交換もつねに行っており、介護における意識の向上、レベルアップにつなげている。 気持ちよく、やりがいを持って働けるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防の為、外部の研修は一時中止している。 法人内の研修や動画を使った研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流があまりないのでお互いに学び合える機会を増やしていきたい。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に家族からの情報提供と本人様からの要望を聞き、入居後不安なく過ごしていただけるように努めている。不安な所があればその都度話し合いにより対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に本人の意見や家族からの要望などを聞き、必要に応じて話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族や本人からの状況確認と生活面での要望などの聞き取りをし、職員間で情報を共有して必要と思われるサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に家事等をしてお互いが助け合う気持ちで生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活面で困った事や助けてほしいことがあれば、出来る範囲で家族にも協力をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ感染予防の為に面会を制限している為に馴染みの人と交流は難しい状態である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションを通して利用者同士が関わるようにしている。 コミュニケーションをとることが難しい方は職員が間に入り関わりを持つように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談があれば対応するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聞き出来る限り希望や意見に添うようにしている。また、スタッフ間で情報を共有し希望や意向を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用から話を聞きこれまでの生活歴を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや生活記録、申し送りノートを活用したり、職員同士の話し合いにより状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りノートを使った情報共有と定期的なミーティングを開き意見交換している。介護計画作成時に本人や家族の意見を取り入れ現状の状況に即していけるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の生活を記録し、何かの気づきや問題などがあれば申し送りノートに記入をし情報を共有している。定期的にミーティングを行いケアプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の要望、スタッフの意見を取り入れ臨機応変な対応をするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染予防の為、現状は実践できないが今後落ち着けば実践していきたい。以前は地域のボランティアの方に訪問して頂いたり、近所の幼稚園に訪問したり喫茶店へ行くなどしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回、職員と定期的を受診をして家族からの要望があれば医師に伝えている。状態に変化があれば受診をし家族に連絡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師が訪問し利用者の身体状態を見てもらっている。定期の訪問以外にも気になる事があれば看護師に相談し対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者や主治医と連絡を取り合い対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態を見て医師や看護師、家族、職員間で話し合い対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の実践力は職員によってばらつきがあり、全スタッフが対応が出来るよう研修を行い実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練や災害マニュアルを作成し対応ができるように努めている。今後、地域との連携も行っていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できる限り、利用者様の性格など把握し利用者様に応じて声掛けの仕方をかえるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を伝えやすい雰囲気を作り、個々に合わせた対応に心掛け意思決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで調理や掃除などをしてもらい、普段の生活リズムを気にかけるようにしている。入浴もなるべく意向に沿って入浴して頂いている。 職員側のペースにならないように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしてもらったり、ご自分で選べる方にはその日の服装を選んでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や準備など出来る利用者にはスタッフと一緒にして頂き、時には本人に任せ見守りの中対応している。 朝食はパン等好みのものを提供している。 利用者に合わせて食事形態や食器など工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニューを提供し利用者の状態によって食べやすい形態に調理している。 十分に食事を摂取できない方には補助食を取り入れたり、小まめに水分を提供するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや、夜間の義歯の消毒を行っている。 口腔ケアは毎食後うながしている 一人で不安がある方にはスタッフが確認し一緒にやっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき個々の排泄パターンを把握して声掛け誘導を行い可能な限りトイレでの排泄に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとって頂いたり、体操や散歩などで体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ一日おきのペースで入浴されている。希望で夜間入浴されている方もみえる。拒否する方は無理強いはず状況を見てタイミングに合わせたケアをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もご本人の状況に合わせて居室で休息をとって頂いたり、リビングでもくつろぐことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の詳細は生活記録に保管しているのいつでも確認ができる。職員全員がすべての薬を把握するのは難しいが薬に変更があったときは特に変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が出来る範囲で調理・洗濯・掃除などで役割を持って一緒に行ったり、工作や編み物、カラオケなど好きな事に取り組むよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染予防の為外出は行っていない。以前は地域の喫茶店やお店に買い物、家族様との外出を行っていた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっている トラブル防止の為、希望される利用者以外は現金を持っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話で家族と連絡を取ることが出来る。 携帯電話を使い家族と連絡を取っている方もおられる。 年賀状や暑中見舞いも送られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう飾りつけや皆で作った掲示物や写真などを飾っている。 天井飾りや壁面などに季節に合わせたイラスト等を飾り楽しく生活できるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごされてくつろげるようソファがあり、車椅子の方も介助でソファに座っていただいている。 気の合う利用者様同士席を近くしたり心掛けしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具の使用をしたり、くつろぎやすいような環境の整備や利用者の状況に合わせた部屋のレイアウトをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は安全に配慮しながら、ベッドや家具を使用しやすい位置に配置している。 車椅子でも自由に動ける通路の確保をしている 安全な環境になるように工夫はしている。		